

さちひろ

発行：天理教狭千廣分教会 〒589-0021 大阪狭山市今熊1-1133 TEL072-365-2571
E-mail:wat@sachihiro.com url:http://sachihiro.com 編集兼発行人・山口 渡

天理教狭千廣分教会の広報紙
1面・みんなの教理入門(10)
2面・幸せを届ける言葉
3面・連載・おさしづの点滴
4面・教会の動き・編集後記

教会の動き

- 朝づとめ…毎朝・6時30分
- 夕づとめ…毎夕・7時00分
- 春季大祭…1月21日午後1時30分
- 秋季大祭…10月21日午後1時30分
- 月次祭…毎月21日午後1時30分
- 春・秋季霊祭…
3月22日・9月22日 午後1時30分

※教会の場所は、左の地図の紫マーカー。市立公民館の裏・西側です。



■阪南支部11月はおつとめ総会

11月30日は、阪南支部恒例のおつとめ総会が、高鷲分教会において、午前10時より開催されました。

今年、支部創設40周年の年です。そこで、それを記念して中西一郎・大阪教区長先生をお招きしての開催となりました。あわせて、天理時報の手配りをはじめ1周年でもありますので、手配りひのきしん者の参加も促しました。その2つを記念しての総会と相成りました。

式典では、和田・支部長が挨拶、つづいて、中西教区長が祝辞を述べられました。

式典終了後、教区長先生が孤馬 寛・作の新曲「なかよしサンバ」を、自らお歌いになって披露されました。本邦初公開とか？

その他、キッズダンス、手品、ギターデュオの演奏など余興、ビンゴゲームなど楽しいひとときを過ごしました。

編集後記

▼これまで温かい日が続いていましたが、この月になって、冬らしくなってきました▼郵便局の前を通ると、寒風吹きすさむ中、入口前で年賀状が販売されていました。わが家の年賀状は、いつもぎりぎり購入、ぎりぎり印刷なのですが、今年はいつもより早めに買いました。以前より枚数を減らしたものの、550枚。広告が入った45円にしました▼広告といっても、15周年記念ロゴが宛名面の切手の下の部分に入っている「エプソンダイレクトシヨップ」のはがきです。http://shop.epson.jp/15th/すでに完売済みです▼そんな話も含めて日々の話題を綴るブログもご覧ください。http://sachihiro.com「#やまさんのブログ」から入れます。

さちひろ 第32号
編集兼発行人・山口 渡
平成20年12月8日
大阪狭山市今熊1丁目1133番地
TEL・072-365-2571



「みんなの教理入門」連載・10 神を拝む

天理大学名誉教授・芹澤 茂

天理教の教えを、天理教学の泰斗・芹澤茂先生がわかりやすく解説します

信仰は「一名一人」(ひとりひとりがするもの)と言われるように、親神様と自分との間柄が一番重要である。

親神様は、自分のことを「わが子」であると言われているのに、自分には親神様が「わが親」であると思われたいというのでは困るのである。しかしこれが実際なので信仰を続けていって、「親神様が本当に親である」ということがわかれば、「もうそれでよい」と一応言える。

それまでの間柄になるにはかなりの努力が必要である。

親神様よりのおてびきを頂いて信仰し始めても、初めはなかなかなじめないものである。「神様はああ言われるけれども…」とか、「神様と違ったって…」など、不信の念は去らないのが普通である。特に、お道の人をみて、「お道とはあんなものか」というようなあなどりの心を持つと、親神様まで遠い存在になってしまう。

下きい」と言う心が湧(わ)いてくると、そこに初めて自分と親神様との間柄がわかにはつきりしてくる。親神様のことをああだこうだとうわさしているようなことではすまないの、みずから親神様に直接面と向かって、願いを聞いてもらわねばならない。

そのとき、「神様を呼ぶ」のに何と言って呼ぶか。これが第一に大事なことである。そこで親神様は、まず、神名として、呼び出すときの名前を教えられた。

なむてんりわうのみこと

というの、親神様に呼びかけるための言葉である。

信仰が進めば、いつどこでも、この名を呼んで親神様を呼び出すことができるようになるが、そこまでになるにはかなり時間がかかるので、どこに行っても呼んだら、親神様が自分の方を向いて、自分の願いを聞いてくださるのか、これが第二番目に大事なことである。(もちろん火急の場合は、

真心からお呼びすることもできるので、親神様はいつでも聞いて下さる。しかしこれは特例である。

一般に、神様や仏様は神社や仏閣に祀(まつ)られてるので、大概の人は、宗派に関係なく、そこに参拝する。

お道の場合には、天理教の教会に行つて、そこで親神様を呼び出してお願いしたりお礼したりするので、信者は所属する教会に参拝するのは、ごく日常なことである。

個人的に、親神様と親密な間柄になりたい人は、教会からお目標(めど)である神実様を頂いてきてお祀りする。初めは子供のままごとのようにすればよい。

お目標である神実様をお社(やしろ)などの容れ物に納めて、それを適当な場所に飾り、その前に手を合わせて拝む。(このようなことはみな教会で教えてくれる)

朝には「おはようございます」、夜には「一日有難うございました」と、いつも親神様につかえ、世話をします。

この場合、神名を呼んで親神様を呼び出すのであるから、何のために呼び出したのか、お礼のためかお願いのためか、はっきり自分の心を申し上げないといけないので、ただ習慣で物言っているというのでは、親神様との間柄も漠然として、親密どころか疎遠(そえん)になってしまう。

こうしてさらに親神様のことについて学んでいけば、やがて、親神様を祀つた所に参拝して祈り、会話するだけでなく、すべてのものに親神様のお働きがみえてくる。親神様が身近に感じられる。親神様が親であることも次第にわかってくる。

「神を拝む」ということは、信仰の道を歩む上には、いつになっても大事なことがある。

芹澤 茂(現・天理大学名誉教授)

この記事は、昭和59年に「天時時報」紙に連載されたものです。

幸せを届ける言葉

高橋美津志「ちよつとひとこと」

(善本社刊)から

「く」と「く」の運命

峠の登り道は、頭を下げて「へ」の字で進み、下り道は、頭を上げて「く」の字で歩く。人間も同じこと。人生には登り坂もあれば下り坂もある。「く」の字になったら、運命のくだり道

「へ」の字になったら、運命ののぼり道 たしかに頭の高い、「く」の字の人には、苦勞(くろう)が多く、心の低い、「へ」の字の人は、いつも平和(へいわ)である。

おさしづの点滴 (1)

何程頼めども、何程尽し願えども、身適わんと言つても、何程身を堪えられんと言つても、拝み祈禱するやなし、柔らこい話で理を聞き分けば速やかなるもの。

(補20・10・)

【解説】 いま、でハいかなる神も山くにおをがみきとふとゆうたなれども

六号26

だめの教えが示されるまでも世界には様々な教え(をがみきとふ)があつて、これによってどんな道も通つてきました。「このもとをしりたるものかあるならば たづねいてみよ神がゆるする」(六号27)と、おふでさきに説かれていきます。

拝み祈禱するやなし

柔らこい話で理を聞き分け

おさしづに、「拝み祈禱」という用語は、このおさしづも含めて8件あります。いずれも身上伺いのおさしづに見られ、「こふき話」の記述などを参考にするとウラナイ・マジナイ、易判断など呪術の類を指していると思われる。

しかしこれからは、いかなる状況下にあろうとも「拝み祈禱」ではなく、「柔らこい話」で理(親神の働き)を聞き分けたならば、すみやかたすけていただける、「いきてをどりてみなたすけるで」(おふでさき六号106)と論されています。

合理的な教育を受けてきた今日の若者の間でも、手を変え品をかえてこの「拝み祈禱」が生き延びていて、一定勢力を保っています。十分に注意したものです。

「柔らこい話」とは、かしの・かりもの教えであることは言うまでもありません。

「おさしづ」全文

補遺)

沢田宮次郎三十三才左の腕痛み身上願さあくよう聞き分け。尋ねる理、運ぶ順序の理、何程頼めども、何程尽し願えども、身適わんと言つても、何程身を堪えられんと言つても、拝み祈禱するやなし、柔らこい話で理を聞き分けば速やかなるもの。めんくに取り一つの理早く聞き分け。内の理と外の理と聞き分け。内の身と世界の身の内も皆かりもの。それ世界に、人に見せられん、見るに見られんと言つても、前世のいんねんくと言つても、分かりやせん。



この記事は、平成15年より「天時時報」紙に毎週、連載されたものです。